

第5回

SOLASIDO

「詩のあん唱」コンクール

全国学校図書館協議会が創立70周年記念事業として立ち上げた「あん唱運動の会」から生まれた（詩を声に出す喜び SOLASIDO）、「詩のあん唱コンクール」に全国からたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。応募作品数 512点の中から、入賞作品が決まりました。入賞17作品を発表いたします。

結果発表

金賞

神奈川県 横須賀市立沢山小学校 2年 2年1組

「つまんない」 谷川俊太郎

つまんない

かずかぞえても つまんない

かずにはおわりが ないんだもん

つまんない

ごはんたべても つまんない

すぐにうんこに なるんだもん

つまんない

とんぼとつても つまんない

ぼくはとんぼに のれないもん

つまんない

てれびみたって つまんない

すいっちきれば きえちゃうもん

つまんない 谷川俊太郎 いちねんせい [小学館]



SOLASIDO は、
空 (SOLA ソラ) で
詩 (SI シ) を読む
活動 (DO どう) です！

QRコードから
あん唱の動画が
ご覧になれます



銅賞

東京都 杉並区立杉並第二小学校 4年 大森ゆいか

「おばあちゃんとひろこ」 谷川俊太郎

しんだらもうどこにもいかない

いつもひろこのそばにいるよ

とおばあちゃんはいいました

しんだらもうこしもいたくないし

めだつていまよりよくみえる

やめてよえんぎでもない

とおかあさんがいました

と おとうさんがいました

でもわたしはこわくありません

わたしはおばあちゃんがいいます

そらやくもやおひさまとおなじくらい

おばあちゃん てんごくにいかないで

しんでもこのうちにいて

おばあちゃんとひろこ 谷川俊太郎 谷川俊太郎詩集すき [理論社]



銀賞

福島県 郡山市郡山ザベリ才学園小学校 4年 橋本真優

「屋久島の杉」 川崎 洋

きみは いくつ？

きみのお父さんは いくつ？

きみのおばあさんは いくつ？

おれたち屋久島の杉の木は

1000歳で やつと一人前

七二〇歳だつて いるぞ

かみなりに うたれて

ぼきりと折れて倒れても

木に あぶらが

ぎつちり詰まつているから

腐らない

折れたところに

杉の種が落ちて 芽が出て

また

何千年も生きるのだ

屋久島の杉 川崎 洋 音読集4すいしゃ [光文書院]



特別賞

和歌山県 和歌山市立 高松小学校 4年 矢本啓

「夜の音楽会」 矢本啓

優秀賞

広島県 府中町立 府中中央小学校 3年 久保心春

「Piano」ミセスケンパーン (久保心春)

兵庫県 明石市立 明石小学校 2年 原 啓之

「窓にうんと手をのばせ」しんざわとこ

新しい国語 一上 (教科書)

東京都 新宿区立 東戸山小学校 3年 島村初美

「どきん」谷川俊太郎

いつかどこかで

奨励賞

栃木県 宇都宮市立 戸祭小学校 2年 大村和久

「いるか」谷川俊太郎

ここもあそびつた

千葉県 大網白里市立 増穂北小学校 2年 武田弦

「あかいと」武田弦

東京都 世田谷区立 3年 たかのふつか

「わたしと小鳥とすずと金子みすゞ

わたしの小鳥とすずと」JULIA 出版局

新潟県 上越市立 飯小学校 5年 高木尚

「だいち」谷川俊太郎

「信じる」谷川俊太郎

谷川俊太郎詩集すき

団体賞

神奈川県 逗子市 逗子オルタナティブスクール TASCOCO

「準備」高階紀一

空への質問

団体奨励賞

沖縄県 うるま市 沖縄アミークスインターナショナル小学校

神奈川県 横浜市立茅ヶ崎台小学校

京都府 京都市京都聖母学院小学校

兵庫県 西宮市 甲子園学院小学校 2年1組

「寿限無」澤野都文

教室で楽しむ群読12か月

審査員のコメント

谷川賢作 音楽家

どの子もみんな、子どもならではの真つ直ぐで気持ちのあふれ出す素直な朗読をありがと。ますます自分の選考基準が問われずごく悩みますが、自信を持って私に、響く「作品を選びたい。私の基準の二つに、驚き」が、あります。最初にハッとして見て、すぐにひかれる朗読を一つでも多く発見したい。

文月悠光 詩人

今年も魅力的な応募作が多く、審査に悩みました。過去の受賞者からも応募があり、年々レベルが上がっています。特に自作詩に質の高いものが増えたことが嬉しいですね。団体部門も表現の工夫・新鮮さが目立っていました。国語教育の場でも良い参考になるのではないのでしょうか。自分の好きな詩を見つけて、それを声に出して読んでみる。詩のあん唱は素朴な形式ですが、挑む価値があります。少しでも興味を持った人は、ぜひ挑戦してみてくださいね！

吉開菜央 映像作家・ダンサー・振付家

詩と歌のあいだのような、音楽的なあん唱に心をひかれました。その人にしか出せない独特のグルーブ感と勢いを感じました。回を重ねることに、お手本のない、それぞれの読み方を発見する面白さが育つてきているのだと思います。正解がないことに難しさを感じ、人もいるかもしれないが、まずは素直に心惹かれる詩を選び、何度も繰り返し声に出すことで詩を心身に叩き込んだら、無理に何かを演じようとせずに、素直に声を出してみたら、心と声と身体が、自然と繋がるかもしれません。

竹村和子 全国学校図書館協議会

言葉のリズムを楽しんでいる作品、韻を踏んでいる部分を豊かに表現している作品、思いを身振り手振りで表現した作品、どの作品も演者それぞれの思いがあふれ、個性豊かにキラキラしていました。個々の言葉のセンス、表現力が光っている自作の詩も増えています。多様な分野の本をたくさん読み、詩を読み、体験し、自分自身を磨いていったらどんな素敵な詩人や表現者たちになるのでしょうか。将来が楽しみです。

富貴大輔 朝日小学生新聞編集長

今回の審査も、よい意味でとても迷いました。「詩のあん唱」という同じジャンルとは思えないほど個性的な作品が数多くありました。比較するのが難しく、「みんなが違って、みんないい」と私も言いたくなりました。今回の受賞作はどれもすぐれた作品ではあります。子どもたちには受賞作を参考にし、そして、それぞれの世界観を大切にしたいと思っています。